

平成 30 年 10 月 2 日 (火曜日)

足立参院議員が台湾訪問

土木・防災で技術交流を

災害に備える インフラ再生改めて訴え

自民党の足立敏之参院議員は、8月末に訪れた台湾で豪雨災害の被災地や防災減災対策の現場を視察し、「激甚化する水害・土砂災害に備えることが大切だ」



と改めて訴えた。2009年に高雄市少林寺で3時間に390ミ、6時間で578ミ、24時間に856ミの降雨量を記録。足立氏は「地球温暖化に伴いこうした雨の降り方が日本でも起こりうるのではないかと警鐘を鳴らしている。」

台湾訪問(8月27〜29日)は足立氏と同期当選の8人の参院議員と、台湾経済界の若手グループとの交流が目的。足立氏は1日早く台湾に入り、26日に台北市内の都市開発・建築の調査、27日には台湾南部のダム・土砂災害の被災地調査を行った。

蔡英文・台湾総統(中央)を訪ねた足立氏(左から4人目)ら訪問団

27日は熱帯性低気圧が発達し、高雄市や台南市など南部各地で浸水被害が発生した。足立氏は09年の豪雨災害で斜面の深層崩壊が発生し、村が丸ごと土砂に飲み込まれた少林寺を訪問。「痛ましい災害を教訓にしていかなければいけない」と語った。1993年に完成した南化ダム(ロックフィル、高さ87・5ミ)も視察。現在、堆砂対策のためにトンネルを建設しており、「日本と同様に台湾でも堆砂問題に取り組んでいる。今後、2国間で技術交流を行う必要を感じた」と話した。

訪問団は28日、総督府に蔡英文総統を訪ねた。足立氏は超高層ビル「台北101」「陶朱隱園」など都市

開発・建築を視察したことや、大規模な土砂災害の被災地などを訪れたことを話し、「土木や防災の分野で技術交流を行っていきたい」と提案した。

帰国後の29日に開かれた「励ます会」で、足立氏は「建設産業再生」に加え、新たに「インフラ再生」を掲げ活動すると宣言。「事前防災などの投資を怠ることは災害の発生を看過することだ。いま投資をしないことが後世へのつけ回しとなる」と強調し、インフラの老朽化対策や整備水準の向上に取り組むとした。

政府は国民生活や社会経済活動に不可欠な重要インフラの緊急点検結果を11月末までにまとめ、新たに集中展開する強靱(きょうじん)化対策を打ち出す。対策は今後編成する18年度補正予算案や19年度予算案に反映させる方針だ。足立氏は9月28日の自民党2018年9月北海道地震・台風21号災害対策本部で、大規模な補正予算の必要性・重要性を訴えた。